

笑顔と感謝

Smile and Thanks

佐藤直正 Naomasa SATO

「男女共同参画関連で何か書いてください」と、学生時代の助手（現東大工学部教授）さんからメールで依頼されました。早速、書いている人および内容を確認したところ、女性は幅広い世代から投稿されているのに対して、男性は偉い人が多いので、私なんかでいいのかと戸惑いました。それに対して、男性の子育て奮闘記で構わないですよと書いてくださいました委員の方に感謝いたします。

さて、私の勤めている場所は横浜市青葉区の研究所であり、住居も区内であるため、通勤ラッシュおよび長時間通勤とは無縁です。この恵まれた環境のため、最初の妊婦検診からすべて付添うことができました。これには妻も心強かったと言ってくれました。女性が多いので少し恥ずかしいですが、生で心音を聞きおよび体の動きを見るのは得難い体験なので、特殊な理由がない限り付添いましょう。

陣痛はW杯オランダ戦のときに始まり、翌早朝にタクシーで病院に行きましたが、出産後母子手帳がないことを指摘されたので家まで取りに戻りました。時間的に余裕ですよと言われて戻ったのですが、病院に到着すると出産直前状態（間に合わなかったらどうすんねんと思いつつ）。そんなことより大事なことは妻の痛みを和らげることで、助産師さんに教えられたように腰とお尻を揉んだり・押したり、腕や腰がくたくたになっても1時間近く続けました。立会い出産は断っていたため、破水したところで壁一つ隔てたところで誕生を待ち、「オギャー」の声を聞き、生まれたばかりの姿を写真に収めることができました。

ちなみに、出産までの仕事生活はほとんど変わりませんでした。ときどき妊婦検診のためにフレックスで10時出勤するぐらいで、帰宅時間が早くなったということはありませんでした。大きな声では言えませんが、料理は両手で数えられるぐらいしかしていません。よく合成＝料理と言われ、合成している人は料理も好きと思っているかもしれません。しかしながら、合成は毎日ほとんど同じ化合物を作っているのに対して、料理は手を変

え品を変えて、バリエーションが豊富でなくてはいけません。一品だけならよいが、一汁三菜など無理、というのが理由です。その代わりに、皿洗い、トイレ&お風呂掃除などの水仕事は好んでやります。なんとなく、ガラス器具洗浄と似ているところがあるからでしょう。

さすがに、子供が生まれると生活は一変しました。大きく変わったのは帰宅時間。息子の沐浴のために定時過ぎには帰宅。最初は慣れなかったですが、数日すると息子の顔から笑顔(?)。笑顔を見るために1カ月検診までは早め帰宅を努めました。他は週末の過ごし方。それまでは好きなことを二人でしていましたが、誕生後の生活は息子が中心! 抱っこにオムツ換え。オムツ換えはいろいろなハプニングがありましたが、ウンチを観察するのが結構面白い（この頃は臭くない）。1カ月検診後は、妻と息子は実家に帰ったため、独身生活に逆戻り。違うのは料理を作らないといけない点（ちなみに、結婚するまでは寮の美味しいご飯を食べていたのでまったく料理をしていません）。先ほど書いたように毎日異なる料理は作れないので、炒める野菜が少し変わるだけの野菜炒めを毎日食べていました（気に入っていましたが）。

再び、三人での生活に戻りましたが、帰宅時間は出産前と同じになってしまいました。それでは良くないので、触れ合う時間を少しでも作るために、早起きをして遊ぶことにしました。その際に見せる笑顔のために、あの手この手を使いました。さて、小さかった息子もプクプク大きくなり、離乳食を開始することにしました。そのときから、朝食時に息子に離乳食を与えるという担当が一つ増えました。なぜかお粥しか食べなかったの、そこに裏ごしした野菜を少し混ぜて騙して、最近ようやく野菜単体で食べるようになりました。ウンチも臭くなりましたが変化が楽しいので結構観察しています。

育メンには程遠いため、妻はきっと不満に思っているでしょうが、仕事に集中できる環境を作ってくれているその妻に感謝を、いつも私に笑顔というビタミン剤をくれる息子にも感謝します。



佐藤直正 Naomasa SATO

(株)三菱化学科学技術研究センター合成技術研究所
リサーチャー、工学博士。
専門は錯体触媒、ポリオレフィン。
E-mail: 4101091@cc.m-kagaku.co.jp